四月号塾だより

発行
2021.3.20
編集
山口学習塾
山口将志
樋口淳一
天沼龍一
矢田力椰

今月号のトピックス

- 公立高校入試結果2021
- 春期講習（小学生春休み日程）
- 公立高校入試数学の変化
- その他

春期講習（小学生春休み日程）

☆3月26日～4月6日は中学生の春期講習期間となります。
☆春期講習期間は、小学生の授業は特別日程となります。

『小学生の春休み日程』
3月26日（金）英語教室14：00～15：00

3月27日（土）計算教室14：00～15：00
国語教室15：10～16：10

3月30日（火）英語教室14：00～15：00

3月31日（水）計算教室14：00～15：00
国語教室15：10～16：10

4月6日（火）英語教室14：00～15：00

5月の連休に関して

現段階では5月1日（土）、2日（日）、3日（月）、4日（火）、5日（水）を休塾の予定にしています。
今後の情勢次第では休塾の予定を変更することもございます。また、各学校の定期テストの日程によっても変更する可能性がございますので、学校の行事予定表が出されましたら教室までご提出ください。お願いいたします。

公立高校入試結果2021

本年度の高校入試、全員が第一志望合格とはなりませんでしたが、全員が最後まで努力を重ねてくれました。卒業生たちの努力の結果をお伝えします。

浦和第一女子	１名
川越	１名
所沢北（普通）	１名
和光国際（普通）	１名
川越南（普通）	３名
坂戸（普通）	３名
松山（普通）	１名
市立川越（普通）	１名
朝霞西	１名
入間向陽	１名
坂戸西	１名
川越西	２名
川越工業（建築）	１名
川越総合	２名
大宮工業	１名
ふじみ野（ＳＳ）	１名
川越初雁	１名

公立高校受験生３０名

公立高校入試数学の変化

「数学はしっかり見直しをして計算問題さえとれれば大丈夫。」
私が山口学習塾で指導をはじめたばかりの頃、入試直前に受験生にそんなことを言っていたのを非常に懐かしく思います。学校選択問題がまだなかった頃の話です。埼玉県の数学は難易度が高く、当時でいう川越南レベルの高校を合格するためには、数学はそこまで重要ではない、そんな時代でした。２０１７年、上位の高校で学校選択問題が実施されるようになり、公立高校入試の数学は大きく変わりました。学力検査問題に大きな変化はありませんでしたが、学校選択問題では今までの入試で８問あった計算問題が３問となり、しかも計算問題の難易度がグーンと上がりました。今までの入試ならば計算問題だけで、３２点取れたのが、学校選択問題では１２点しかとれません。それに加えて、解の公式の証明など、今までとは違うタイプの問題も出題され、当時の受験生は相当驚いたと思います。そして、２０２０年、学力検査問題が易化し、２０２１年、学校選択問題が易化したように私は感じます。２０２０年度の入試では数学がものすごく苦手だった受験生が入試本番数学のテストで７２点をとりました。そして２０２１年度、開示得点の報告があった塾生の最高得点と平均点が以下の通りです。

（山口学習塾の受験生の数値：報告のあった生徒のみ）

学校選択問題	最高得点　７１点	平均点　６２点
学力検査問題	最高得点　７４点	平均点　６７点

単純に簡単となったというよりは、しっかり学習している受験生とそうでない受験生の差が付きやすくなったという印象です。学校選択問題も絶対解けないだろうという問題はなくなりました。今年の受験生も特別な学習はしていませんが、いつもより基礎力の完成に力を入れました。今年の入試問題や受験生の開示得点の結果を見て、公立高校入試数学では基礎力の完成が必要とされているのではないかと思います。そして、今後の公立高校入試は数学の得点が合否に深く関わってくると思われます。特に今年は、新学習指導要領、教科書改訂にともなう英語の入試問題の変化が予想されます。英語が難化し英語の得点で差がつかない入試になると、「数学ができないと志望校には合格できない」という状況になることも考えられます。
数学担当として一層気を引き締めて指導にあたりたいと思います。

(樋口)

北辰テストついて

４月25日（日）から新中学３年生の北辰テストが始まっていきます。北辰テストがなぜ大事なのか、また、北辰テストの見方についての注意点などをお伝えいたします。

＜私立高校の確約材料として＞

当塾は公立高校入試を目指して指導を行っておりますが、毎年ほとんどの生徒がすべり止めとして私立高校を受験します。その私立高校の合格に大きな影響があるのがいわゆる”確約”と呼ばれるものです。”確約”とは、各私立が設定する成績基準に達している生徒は優先的に合格させる、という私立高校側からの約束のようなものです。この”確約”を得た場合、その私立高校にはほぼ確実に合格するといってもいいでしょう。多くの私立高校で、確約の判断材料となるものは３年時の学校の通知表と、３年時の7月・９月・１０月・１１月・１２月の北辰テストの結果です。北辰は７月～１２月の５回のテストのうち、上位２つの成績の平均をみる学校が多いです。つまり、７月からの北辰テストで２回いい成績をとってしまえば滑り止めの私立高校の合格がほぼ決まってしまうのです。ですから、７月からの北辰テストは私立高校の入試と同じくらい重要だといえるのです。

＜公立入試の模試としての機能＞

こちらに関しては、私はそれほど重視していません。当塾では、１２月後半から２月半ばにかけて、１０回にわたり公立高校入試模擬テストを行ってまいります。（去年は、休校措置に伴う、公立高校入試の出題範囲削減により、過去問を使用することができず、５回しか実施できませんでした。）毎年、その１０回のテストの結果を総合して、最終的な志望校を決めてもらっています。

＜北辰テスト受験の目安＞

第1回、第2回の北辰テストは練習として1回は受けておいた方が良いかもしれません。７月以降の北辰テストは私立高校の確約がとれるまでは受験していただきたいと思います。私立高校の確約がとれた後は、無理に受験しなくてもいいと毎年お伝えしています。

中学生の募集状況

現在、中学生クラスは新中３生は定員となっております。新中２生クラスは残り１名、新中１生クラスは残り１２名です。（3/16日時点）
当塾への通塾をご検討の方がいらっしゃいましたら、お早めのご連絡をお願いいたします。